

坂の上通信

平成三十年十月十五日
広島市立美鈴が丘高等学校
新聞文化部(四〇三演習室)

2年生 修学旅行へ

東京満喫の四日間

10月2日(火)から5日(金)まで、2年生は修学旅行で東京方面へ出かけた。おおむね天候にも恵まれ、充実した研修であった。



最終日にはもんじゃ焼き体験も

日程は以下の通り。
(1日目) 広島駅に集合の後、新幹線で東京へ。車内で昼食を済ませ、昼過ぎに東京駅に到着。その後はそれぞれ訪問する企業、大学へ向かった。
(2日目) 都内特別自主研修。班ごとに予定を立て、自分たちだけで行動した。夜は劇団四季の『ライオンキング』を鑑賞。
(3日目) 東京ディズニーリゾート。ランドかシーかを個別に選択して一日楽しんだ。この日だけは私服も可。
(4日目) クラスごとに決めたコースを回った。スカイツリーと浅草を選択したクラスが多かった。昼食はもんじゃ焼きの体験。

修学旅行を終えて

教頭先生 インタビュー

今回の修学旅行の団長を務めた教頭先生に、修学旅行の感想をうかがった。

— 今回の修学旅行の成果について、どのように思われますか。

— 多くの生徒が指示されたことを守っていました。

とをきちんと守り、規律が保たれていました。また、皆さんがいきいきしていたことが何より良かったと思います。

— 反省すべき点は。

一部の人ではありませんが、時間を守れていなかったことを望みます。

です。今後の学校生活においても、時間を守るといのは意識してもらいたいですね。

— 来年度の修学旅行生に向けて一言お願いします。

今年に続き、進路別研修が行われます。自分の進路について本格的に考えるよい機会になりますので、自分自身で調べ、行動していくことを望みます。

今年から企業・大学訪問も

今年の修学旅行から企業・大学訪問が企画された。事前の希望をもとに、グループごとに東京の企業などを訪問し、最先端の学問や社会について理解を深めるといふものだ。

事前学習として、訪問先についての調査や質問を考えたほか、電話でのアポイントメントも生徒自身で行った。訪問先の総数は30近くあったため、原則として引率の先生もつかず、生徒のみでの訪問となった。

たくさんさんの訪問先から2例を紹介しよう。
1つ目は小学館。ここでは月間少女漫画雑誌『ちゃお』の編集者の方に色々な話を聞いた。

た。漫画のタイトル部分の扉絵の配置や付録の工夫などだ。

今回は、本物のネーミング原案を見ることができた。原画には「トン」と呼ばれる画材が貼ってあり、実際に触って、貼ってない部分との違いを感じることができた。1冊の本が出版されるまでには様々な工夫と苦労があることが理解できた。

2つ目は文部科学省。説明の後、省庁を見学させてもらった。ここでは大臣が座る椅子に実際に座らせてもらったり、貴重な体験もできた。

文部科学省は、学校のことでだけでなくスポーツなども含めた幅広い分野で活躍している。

広い教育に携わっていることや、文化遺産の保存も管轄しているなど、今回の研修を通じて初めて知ることでも多かった。他にも博物館や音楽系の企業、あるいはマスコットを訪問した班もあった。

現在、各班でまとめたものを2年生のフロアで掲示しているので、ぜひ見てほしい。



(上) 東京国立博物館

(下) 株式会社ナック

(右) 株式会社イオン

美・鈴・鈴・鈴

先日、2年生が修学旅行から帰ってきた。今号で取り上げたように、美高では例年東京での研修旅行を実施している。私立高校では海外を修学旅行先にしていくところも多いが、公立高校は国内のどこかにでかける学校が多いようだ。▼住んでいるとあまり実感はないが、広島も修学旅行先としては有名だ。世界遺産である原爆ドームと平和記念資料館、厳島神社の観光に加え、もみじ饅頭の焼き体験や岩国の錦帯橋、ウサギと毒ガスで有名な大久野島など、コースの組み合わせも色々あるようだ。▼残念なことに、広島への修学旅行は減り続けている。

昭和63年には過去最高で57万人もの修学旅行生が来たが、少子化などもあり平成16年には30万人までに減少している。▼広島は大型レジャー施設に乏しいとか、お好み焼き以外に有名な食事が少ないなど厳しい声もあるが、自分たちの住む市を「観光」という視点で眺めてみるのもよいのではないだろうか。

編集後記

今回は修学旅行特集号を発行した。2年生の皆さん、先生方、お疲れ様でした。